

通し番号	5171
------	------

分類番号	R05-14-12-01
------	--------------

水稻多収品種‘ほしじるし’の本県における栽培特性を明らかにしました	
[要約] 水稻多収品種‘ほしじるし’の収量は、6月上旬植えて728～780kg/10a、6月中旬植えて693～695kg/10aとなり、多収米に期待される600kg/10a以上の収量を見込める。玄米外観品質は、6月上旬植えて4.0と良好であるが、6月中旬植えては5.5となる。タンパク質含有量は、6月上旬植えて7.7%、6月中旬植えて6.4～7.3%となる。	
神奈川県農業技術センター・生産技術部	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

近年、学校給食用米の供給量が確保できないため、多収品種の導入が進められている。しかし、本県における多収品種の栽培特性の知見が少なく、十分な収量が得られてない。そこでは、有望と思われる水稻多収品種‘ほしじるし’の本県における栽培特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 生育は、6月上旬(6月10日)移植および6月中旬(6月13日)移植で、基準肥料区と緩効性肥料区の出穂期、成熟期、稈長等は概ね同等である(表1、2)。
- 2 玄米重は、6月上旬(6月10日)移植では、基準肥料区が728kg/10a、緩効性肥料区が780kg/10a、6月中旬(6月13日)移植では、基準肥料区が695kg/10a、緩効性肥料区が693kg/10aである(表3、4)。
- 3 整粒歩合は、6月上旬(6月10日)移植では、基準肥料区と緩効性肥料区それぞれ85.1%、84.7%、6月中旬(6月13日)移植では、基準肥料区と緩効性肥料区それぞれ70%、75.5%である(表3、4)。
- 4 玄米の外観品質は、基準肥料区と緩効性肥料区で差はない。タンパク質含有率は、6月上旬(6月10日)移植では基準肥料区と緩効性肥料区ともに7.7%、6月中旬(6月13日)移植では基準肥料区7.3%、緩効性肥料区6.4%である(表3、4)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 施肥は、全国農業協同組合連合会の「多収米栽培スタートアップガイド」の基準肥料または緩効性肥料とし、追肥は、出穂15日前に行う。一般的な水稻品種に比べて施肥量は多く施用する。
(成分量 N-P₂O₅-K₂O、kg/10a)

試験区	基肥	追肥	全施肥量
基準肥料	8.0-12.0-12.0	4.0-0.0-4.0	12.0-12.0-16.0
緩効性肥料	12.0-7.0-8.0	-	12.0-7.0-8.0

緩効性肥料は、新マトリックス278を使用した。

- 2 神奈川県における令和5年産水稻収穫量は499kg/10aである(作物統計調査)。

[具体的データ]

表1 6月上旬(6月10日)移植の生育調査結果(2022年度)

試験区	移植日 (月.日)	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 ^z (cm)	穂長 ^z (cm)	穂数 ^z (本/m ²)
基準肥料	6.10	8.21	10.2	89.1	22.2	449.2
緩効性肥料	6.10	8.21	10.2	86.2	21.3	455.7

^z2022年9月13日に調査。

表2 6月中旬(6月13日)移植の生育調査結果(2023年度)

試験区	移植日 (月.日)	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 ^z (cm)	穂長 ^z (cm)	穂数 ^z (本/m ²)
基準肥料	6.13	8.20	9.27	79.7	21.3	373.2
緩効性肥料	6.13	8.20	9.27	76.2	20.1	369.3

^z2023年9月13日に調査。

表3 6月上旬(6月10日)移植の収量・品質調査結果(2022年度)

試験区	精穀重 (kg/10a)	玄米重 ^{zy} (kg/10a)	玄米 千粒重 ^y (g)	玄米 外観 品質 ^x	登熟 歩合 ^w (%)	整粒 歩合 ^v (%)	タンパク質 含有率 ^u (%)
基準肥料	1,042	728	23.3	4.0	55.7	85.1	7.7
緩効性肥料	1,162	780	23.7	4.0	70.5	84.7	7.7

^z グレーダーは1.8mm篩を使用。 ^y 水分含有率を15%に補正した値。

^x 観察調査1(上上)～9(下下)。 ^w (2.0mm以上の玄米数) / (全玄米数)。

^v 穀粒判別器(ケット社製、RN-700)を使用。 ^u 成分分析計(静岡製機、MT-3500P)を使用。

表4 6月中旬(6月13日)移植の収量・品質調査結果(2023年度)

試験区	精穀重 (kg/10a)	玄米重 ^{xy} (kg/10a)	玄米 千粒重 ^y (g)	玄米 外観 品質 ^x	登熟 歩合 ^w (%)	整粒 歩合 ^v (%)	タンパク質 含有率 ^u (%)
基準肥料	945	695	23.8	5.5	73.4	70.0	7.3
緩効性肥料	910	693	22.4	5.5	72.8	75.5	6.4

^z グレーダーは1.8mm篩を使用。 ^y 水分含有率を15%に補正した値。

^x 観察調査1(上上)～9(下下)。 ^w (2.0mm以上の玄米数) / (全玄米数)。

^v 穀粒判別器(ケット社製、RN-700)を使用。 ^u 成分分析計(静岡製機、MT-3500P)を使用。

[資料名] 令和4、5年度試験研究成績書

[研究課題名] 水稻多収品種の栽培特性の解明

[研究期間] 2021(令和3)年度～2023(令和5)年度

[研究者担当名] 岡野英明、横田秀海

[協力・分担関係]